

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 30 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21401046

研究課題名(和文) 東アジアにおけるコリアン・ネットワークの人類学的研究

研究課題名(英文) An Anthropological Study of Korean Network in East Asia

研究代表者

朝倉 敏夫 (Asakura, Toshio)

国立民族学博物館・文化資源研究センター・センター長 / 教授

研究者番号：40151021

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,200,000円、(間接経費) 3,060,000円

研究成果の概要(和文)：東アジアのコリアン・ネットワークについて、既存の研究では明らかとなっていなかった、ないし否定されてきた3点が明らかとなった。越域性、多重性、主体性の3点である。この研究成果の主たる報告書、および現地還元活動として、『韓民族海外同胞の現住所 当事者と日本の研究者の声』(学研文化社、2012)を、韓国語にて出版した。

研究成果の概要(英文)：This project proved three points which previous research had not argued or even had denied: trans-border networking, multiplex networking and subjective networking of Koreans in East Asia.

The main report has been published in South Korea as a book: Toshio Asakura & Shimpei Ota (eds.), Contemporary Aspects of Oversea Koreans: Voices of the Natives and Japanese Scholars, Seoul: Hagyeonmunhwasa, 2012. [in Korean]

研究分野：人文学C

科研費の分科・細目：文化人類学・民族学

キーワード：韓国・朝鮮 ディアスポラ トランスナショナリティ 適応 協同 包摂 排除

### 1. 研究開始当初の背景

21世紀を迎え、民族の混交は幾多の問題をはらみながら、ますます進行している。なかでも、朝鮮半島から拡散したコリアンは、ホスト社会に適応しつつも、コリアンどうして協同している。また、ホスト社会に包摂されながら、融合されず、時に排除される。この点で独特の存在である。

世界には700万人以上の海外コリアンが暮らしている。海外コリアンたちの主な移住先は、米国(36%)、中国(35%)、日本(11%)、旧ソ連諸国(9%)、カナダ(3%)である(2003年基準)。

世界に拡散したコリアンは、現地に適応しつつもコリアンどうして排他的に協同している。他方でホスト社会も、コリアンを受け入れながら異化している。そうした「適応協同」「包摂 排除」の軋轢が顕在化したのが1992年のロス暴動であり、これを機に、特に北米のコリアンを対象とした政治経済学、地域研究、社会学、カルチュラルスタディーズの研究が盛んになった。

他方で、これら学問分野の研究では明らかになりにくいのが、当事者の側から見た海外コリアンやホスト社会の実情である。この問題と取り組む文化人類学においては、東アジアの海外コリアンが研究事例として多く取りあげられ、海外コリアンの濃厚なネットワークの背景が、生活文化の問題として明らかにされてきた。

これらは、応募者が代表を務めた国立民族学博物館の共同研究「韓国社会 グローバル化の諸局面」(平成15~17年度)や、科学研究費補助金研究「グローバル化時代における海外コリアンのホスト社会への適応と戦略」(基盤研究(B)、課題番号:1540139)(平成15~18年度)によっても、より幅広い事例について、より深く検証できた。

だが、先行プロジェクトでは結論に対して再検討の余地も発見できた。特に、これらの3

点を相互に結び付けるような包括的で高次のネットワーク原理を明らかにするまでには至っていない。

近年の人類学におけるネットワーク研究では、社会のネットワークはすべて相似的(fractal)関係にあるという理論がインパクトを与えている。多様なネットワークどうしの中に帰納的原理を探求する作業が見直されてきている。だが、それらは他者との接触がない「閉じられた社会」の研究に人類学を後戻りさせている、ないし社会の実情に反していると批判されてもおり、ボーダーレス社会の研究への節合が急がれる。

### 2. 研究の目的

本研究は、第一に東アジアのコリアン・ネットワークに根差した生活文化を明らかにする。その結果、第二にコリアン・ネットワークを形作る「適応 協同」の原理と、コリアン・ネットワークを取り巻く「包摂 排除」の原理を解明する。

これらにより、ボーダーレス化する東アジアで、民族の適応と協同、包摂と排除の動きがどう働いているかに迫り、民族の混交という社会のリスクを透明化する一助としたい。

### 3. 研究の方法

コリアン・ネットワークは世界各地に見られるが、本研究では調査と分析の対象を東アジアの海外コリアンにしぼり、そのネットワークの原理を、インタビュー法と参与観察法により、集中的に抽出した。また、コリアン・ネットワークの形成初期における、「適応協同」や「包摂 排除」の進行過程を検証し、同時に華僑・華人との関係も検証するための比較事例として、タイ、ベトナム、シンガポールの調査研究を補足的に取り入れた。

各地域の調査研究は分担して行ったが、国内で重なる研究会で結果を照らしあわせ、東アジアのコリアン・ネットワークの全体像を抽出した。

#### 4. 研究成果

##### (1) ネットワークの越域性

既存の研究で強調されてきた、コリアンどうしの協同や、コリアン以外の人びとの排除というコリアン・ネットワークのモデル化には、大きな問題があることが明らかとなった。東アジアの各地域では、コリアンがコリアンどうし協同しているだけでなく、現地の人びとや韓国在住の人びとも越域的なネットワークを形成していることがわかった。ただし、そうしたネットワークの政治経済的な側面においては、コリアン・ネットワークを優遇する原則があるということもしめせた。

##### (2) ネットワークの多重性

本研究でとりあげた東アジアのいずれの地域においても、コリアン・ネットワークが複数の次元にわかれて存在していることがわかった。移住した時期によるネットワークの分離は特に明確であり、1980年代後半から90年代前半を境として、その前後に移住した人びとのあいだでは、たとえ同じ地域に住むコリアンどうしでも、ネットワークが希薄であることがしめせた。また、それぞれのネットワークのあいだを媒介するキー・パーソンの存在により、そうした分立が可能になっていることも分析できた。

##### (3) ネットワークの主体性

本研究であつかったコリアン・ネットワークを事例として、ネットワーク理論が見過してきた事項を示唆することも出来た。コリアンは、ネットワークを形成し維持し利用する主体としてネットワークと関わっているだけでなく、ネットワークを客観的に分析し記述し知らしめる主体でもある。この背景には、ホスト社会で育った当事者のなかに知識人層が生まれていることや、韓国で知識人層に含まれる人びとが積極的に海外へ移住し、ホスト社会のネットワークに関わっていることがあつたとわかった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

島村恭則, 「フォークロア研究とライフストーリー」, 山田富秋・好井裕明(編)『語りか拓く地平 ライフストーリーの新展開』(査読なし), せりか書房, pp.78-98, 2013年.

岡田浩樹, 「マイノリティとしての朝鮮半島系住民 朝鮮人から在日コリアンへ」, 『国際文化学研究』(査読なし), 40巻, pp.1-24, 2013年.

太田心平, 「国家と民族に背いて アイデンティティの生き苦しさ、韓国を去りゆく人びと」, 太田好信(編)『政治的アイデンティティの人類学 21世紀の権力変容と民主化にむけて』(査読なし), 昭和堂, pp.304-336, 2013年.

島村恭則, 「引揚者 誰が戦後をつくったのか?」, 山泰幸ほか(編)『現代文化のフィールドワーク入門』(ミネルヴァ書房)(査読有), pp.179-199, 2012年.

島村恭則, 「熊本・河原町『国際繊維街』の社会史 闇市から問屋街、そしてアートの街へ」, 『関西学院大学先端社会研究所紀要』(査読なし), 9号, pp.21-31, 2012年.

韓景旭・片山怜, 「大同江文化」, 『西南学院大学国際文化論集』(査読なし), 27巻1号, pp.217-231, 2012年.

島村恭則, 「別府と伊東 アジュールとしての温泉都市」, 『関西学院大学先端社会研究所紀要』(査読なし), 5巻, pp.31-36, 2011年.

林史樹, 「チャンポンにみる文化の‘国籍’ 料理の越境と定着過程」, 『日本研究』(査読有), 30巻, pp.47-67, 2011年.

ASAKURA T., “Yakiniku and Bulgogi: Japanese, Korean, and Global Foodways,” *Journal of Chinese Dietary Culture*, (査読有), 6(2), (ページ番号なし), 2010.

島村恭則, 「引揚者の民俗学」, 谷口貢ほか編『民俗文化の探求 倉石忠彦先生古稀記念論文集』(岩田書院)(査読有), pp.333-353, 2010年.

韓景旭, 「脱北者問題と中国及び北朝鮮政府の対応」, 『西南学院大学国際文化論集』(査読なし), 25巻1号, pp.85-104, 2010年.

朝倉敏夫「越境するキムチ」, 庄司博史(編)『移民とともに変わる地域と国家』(国立民族学博物館調査報告83)(査読有), pp.59-67, 2009年.

韓景旭, 「北朝鮮の食糧問題と市場経済の動向」, 『西南学院大学国際文化論集』(査読なし), 24巻1号, pp.1-18, 2009年.

韓景旭, 「ある女性脱北者の口述史」, 『西南学院大学国際文化論集』(査読なし), 23巻2号, pp.59-86, 2009年.

〔学会発表〕(計11件)

太田心平, 「消費されるガラス乾板写真 植民地朝鮮と現代韓国の一関係性」, 『人・モノ・情報の交換におけるダイナミズム 東アジアの物質文化からみた普遍性と独自性』, 神奈川大学, 2013/11/23.

朝倉敏夫, 「サハリンのキムチ」, 『2003ユネスコ無形遺産諮問機構国際シンポジウムキムチとキムジャン』, 慶熙大学, 2013/09/26.

朝倉敏夫, 「日本でのサハリン韓人の存在」, 『サハリン国立大学韓国語科開設20周年記念国際学術大会 露韓間文化疎通』, サハリン国立大学, 2011/10/07.

岡田浩樹, 「『多文化共生』言説と在日コリアン」, 『コリアンコミュニティ研究会』, 大阪市立大学, 2011/10/02.

岡田浩樹, 「トラウマの解体に抗して 日本社会の『多文化化』における在日コリアンの再帰性」, 「トラウマ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究 物語か

らモニュメントまで」, 京都大学, 2011/06/20.

島村恭則, 「戦後を生き抜いたコリアンたち 福岡市での集住と暮らし」, 『在日韓人歴史資料館開設5周年記念セミナー「在日100年の歴史を後世へ」』, 福岡市博物館, 2010/12/04.

朝倉敏夫, 「飲食知味方は世界に、世界は飲食知味方に」, 公開講演会『飲食知味方は世界に、世界は飲食知味方に』, (韓国)慶北女性政策開発院, 2010/11/18.

太田心平, 「裏読みする韓国社会 近年の海外移民と世代分節を中心に」, 『日本文化人類学会 中四国地区研究懇談会 第33回研究例会』, 広島大学, 2010/06/26.

岡田浩樹, 「多文化共生」言説の意味作用に関する批判的検討 神戸市長田区の事例を通して」, 『移動/共生』, 関西学院大学, 2010/06/25.

岡田浩樹, 「「混線」する文化の民族誌 「多文化共生」以前の神戸・長田」, 『日本文化人類学会第44回研究大会』, 立教大学, 2010/06/12.

岡田浩樹, 「混線する民族の境界線 『多文化共生』以前の神戸・長田」, 『日本民俗学会第61回年会』, 國學院大學, 2009/10/04.

〔図書〕(計3件)

島村恭則(編著), 『引揚者の戦後』, 新曜社, 2013. (全398頁).

朝倉敏夫・太田心平(編著)『韓民族海外同胞の現住所 当事者と日本の研究者の声』, 學研文化社, 2012年. (全344頁) [韓国語文]

島村恭則, 『〈生きる方法〉の民俗誌 朝鮮系住民集住地域の民俗学的研究』, 関西学院大学出版会, 2010年. (全321頁)

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

「東アジアにおけるコリアン・ネットワーク  
の人類学的研究」

<http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/project/other/kaken/21401046>

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

朝倉 敏夫 (ASAKURA TOSHIO)

国立民族学博物館・文化資源研究センター・センター長 / 教授

研究者番号：40151021

### (2)研究分担者

太田 心平 (OTA SHIMPEI)

国立民族学博物館・民族社会研究部・准教授

研究者番号：40469622

[平成 21 年度～平成 23 年度]

岡田 浩樹 (OKADA HIROKI)

神戸大学大学院・国際文化学研究科・教授  
研究者番号：90299058

島村 恭則 (SHIMAMURA TAKANORI)

関西学院大学大学院・社会学研究科・教授  
研究者番号：10311135

林 史樹 (HAYASHI FUMIKI)

神田外語大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：00364919

### (3)連携研究者

韓 景旭 (KAN KEIGYOKU)

西南学院大学・国際文化学部・教授  
研究者番号：50309861

[平成 24 年度～]

岡田 浩樹 (OKADA HIROKI)

神戸大学大学院・国際文化学研究科・教授  
研究者番号：90299058

島村 恭則 (SHIMAMURA TAKANORI)

関西学院大学大学院・社会学研究科・教授  
研究者番号：10311135

林 史樹 (HAYASHI FUMIKI)

神田外語大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：00364919